

忍馬車鉄道の路線図

行田市郷土博物館所有

明治16年(1883)7月に日本鉄道の上野〜熊谷間が開通しましたが、線路は中山道に沿って敷設されたため、当時の行田の中心地は鉄道から大きく離れてしまいました。明治20年代から30年代にかけて、北埼玉郡内では行田を通る鉄道の計画が何度か持ち上がりましたが、いずれも実現には至りませんでした。そこで忍町の人々は吹上停車場までの鉄道敷設を目指し、明治33年(1900)に設立したのが忍馬車鉄道株式会社です。忍町の商工業者15人が発起人となり、資本金は2万5千円で、会社の目的に「旅客及び貨物運輸」とあるように、人と物資両方の輸送を扱うこととし、社長には忍町長を勤めた古市直之進が就任しました。



忍馬車鉄道株式会社線吹上行田間平面図

上町との丁字路で右折して下町の大長寺の手前で左折、忍川を渡り長野村広小路に至るルートでした。しかし、工事が予定よりも遅れ工費もかさんだため、路線を短縮し発着場を長野村から下町に変更し、明治33年12月に鎌塚〜佐間間を暫定開業させ、翌年6月に吹上停車場から下町まで全線開業しました。吹上から下町までを40分ほどで運行しました。

経営は当初から厳しかったようで、同38年には一度会社を解散し、新たに増資を図って、行田馬車鉄道株式会社として再出発しました。大正期になると自動車を購入し、一般貨物の自動車輸送に経営の中心が移ってゆき、行田〜羽生間に北武鉄道(現・秩父鉄道)が開通した2年後の大正12年(1923)に、行田自動車株式会社となり馬車鉄道は廃止されました。明治後期に誕生した行田最初の鉄道はバス輸送へと引き継がれていったのです。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

特定非営利活動法人
地域支援ネット「ケースフォー」

認知症高齢者とその家族などに対し、社会参加や地域住民との交流に向けた支援活動を行っているのが特定非営利活動法人地域支援ネット「ケースフォー」です。

平成14年に設立し、スタッフは現在約10人。高齢者グループホーム「ほっとほっと」の運営の他、相談援助などの福祉活動を行っています。理事長の久保公友さんは「困っていることを自ら相手に伝えることは意外と難しいため、相談者とサポートする側との間に入って総合的な問題解決を目指しています」と話してくれました。

また、同法人では地域の活性化を図るため、4年前からぶどうの栽培にも挑戦しています。「行田おいしいぶどうを」という思いを胸に、約200坪の畑でシャインマスカットなど3種類を栽培。昨年秋には約900房のぶどうを会員や地域の方々に無料配布し、とても喜ばれたそうです。

支援のネットワークもぶどうのつるも、これからさらに大きく広がり、よりたくさんの笑顔があふれることでしょう。

【理事長】久保 公友 【電話】598-7405 (高齢者グループホーム「ほっとほっと」内)

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～⑬



地域の方とともに栽培するぶどう

今月の表紙

12月8日、桜ヶ丘公民館でミニ門松づくりが行われました。

19人の参加者は講師のアドバイスを受けながら、南天や五葉松、梅などを使い、華やかで個性豊かな作品に仕上げました。制作中は会話も弾み、新年を前に福を呼び込むような笑顔あふれる講座となりました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をデジタル版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。

